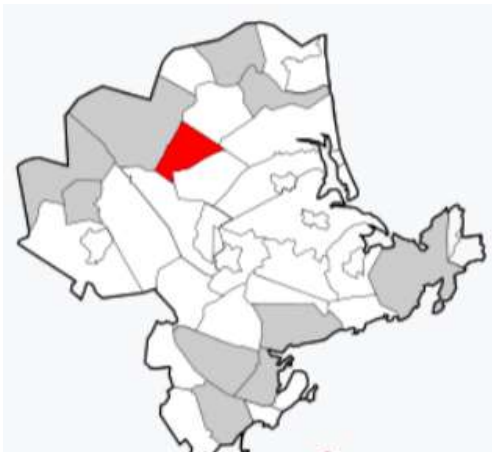


ニューイングランド便り 2021年

マサチューセッツ州グローブランド市

沼倉研史

2020年はコロナ禍ばかりでなく、私の体調が悪化したために、取材のための遠出が難しくなってしまう、隣町のグローブランド (Groveland) の紹介で間に合わせることにしました。グローブランドはマサチューセッツ州、エセックス郡の小さな町です。下に添付した地図に示されているように、エセックス郡は、マサチューセッツ州の北東の端に当たりますが、グローブランドは、メリマック川をはさんで、北側は拙宅がある Haverhill に接し、東側は West Newbury、南側は George Town、西側は Bradford に接しています。



グローブランド／エセックス郡



エセックス郡／マサチューセッツ州

町の総面積は24.4km²ですから、ほぼ5km四方ということになります。車で行けば、数分で通り抜けてしまうほどの小さな町です。2010年の国勢調査によれば、人口は6459人と一万人にも達していません。人種構成では、白人が97%、アフリカ系が0.9%、アジア系、ヒスパニック系が若干となっています。それでも、市庁舎、警察、消防署、郵便局などは一通りそろっています。Haverhill 側から Haverhill Bridge を渡ってグローブランドに入ると、この町のダウンタウンともいえる、エルムパークが見えてきますが、雰囲気はガラッと変わります。まず、

建物の間のスペースが広がります。そこにある木々も大木が多くなります。建物の間に木が植えられているというよりも、森の中に建物が点在しているという表現の方が当たっているでしょう。たまに、ショッピングセンターなるものがありますが、店が2、3軒あるだけで、昔からの田舎の何でも屋、現在のコンビニエンスを大きくした感じの店です。ダウンタウンといっても、商店はほとんどなく、多くは弁護士事務所、保険会社などで、昼間は散歩する人も見かけません。



町役場



消防署



警察署



エルムパーク（ダウンタウン）

グローブランドにヨーロッパからの移民が入植したのは、1639年のことだといわれています。入植者は60家族ほどだったとのことですから、100～200人の規模だったのでしょう。メイフラワー号がプリモスに辿り着いてから、20年ほどのことです。当時は、**Rowley** という町の一部でした。その後複雑な分裂と合併が繰り返され、1850年に現在のグローブランド市（町？）として確立されました。町ではこの年を、グローブランドが生まれた年としています。その後人口は緩やかに増加しますが、飛躍的に伸びることはなかったようです。何分小さい町で

すので、大規模製造業が成功する機会はあまりなかったのでしょう。小規模の製靴業や、小型船舶の製造業があったとのことですが、現在では無くなっています。

グローブランドには高速道路はありません。それでも、車で十分も行けば、I-95という高速道路のインターチェンジにたどり着きます。高速道路に入ってしまうえば、ボストンまでは3～40分の距離で、完全にボストンへの通勤可能範囲ということになります。つまり、現在のグローブランドは、ボストンなどの大都市のベッドタウンとなっているのです。ただ、朝夕の通勤ラッシュはかなりひどいもので、通勤列車がある近くの Haverhill か、Newburyport まで、自分の車を運転していき、そこに駐車した上で、列車でボストンまで行く人も、それなりに増えているようです。

これといった製造業や観光目玉がないグローブランドですが、ひとつ大きな資源があります。それは、ニューハンプシャー州に源を発し、大西洋にそそぐメリマック川です。グローブランドはメリマック川を挟んで Haverhill に面しているわけですが、このあたりが大型のクルーザーで遡れる限界になっています。これより上流となると、水深がなくて、大型船舶は入れません。アメリカ人の水遊び好きはそうとうなもので、自分の家の庭からクルーザーを出し、大洋に出ていくという生活が一つの夢になっています。ボストンのような大都市でビジネスを持つ一方で、週末には水遊びに出かけるというような生活が実現可能なのです。グローブランドのメリマック川には、そのような夢を果たせるような家が並んでいます。川岸の土地は棧橋付きで千坪以上、家は床面積が150坪以上というような“普通の家”が、7～9千万円で購入することができます。これがボストン近郊ならば、10億円をはるかに越えるでしょう。しかも、グローブランドは緑豊かな自然環境にめぐまれ、大西洋までは船で1時間足らずという便の良さがあります。町内には、商店街などありませんが、車で15～20分出れば、モールやショッピングセンターなどの大型商業施設はいくらでもあります。このような環境ですから、米国のミドルクラスにとっては、なんとか手の届く範囲の“豪邸”といえるのでしょう。弊社の税務処理を依頼している会計士が、この地域に住んでいるのですが、まともに仕事するのは、申告シーズンの4～5ヶ月だけで、夏はほとんどクルーザーで大西洋に出て、釣り三昧の生活に浸るのだそうです。それでも、米国では大金持ちには入れず、せいぜい小金持ちです。ちょっとした規模の会社の部長クラスであれば、十分手の届

く範囲です。大手企業であれば、日本のサラリーマンでも、手の届かない金額ではないかもしれませんが、そのような人々は毎日の仕事に追われ、レジャーのために使える時間を生み出せないのが実情ではないでしょうか。



メリマック川の川岸に並ぶ個人所有の栈橋



中レベルの新築住宅



アンティークな古い住宅

グローブランドでは、ほとんどの建物は木造です。ニューイングランドコロニアルスタイルという様式で、最近新たに建てられるオフィス用、住宅用の建物でも同じです。これらの建物には、ほとんど上物と同じ床面積の地下室がありますので、外

側から見るよりも、かなり大きなスペースがあるのです。このほか、グローブランドには、小金持ち用と思しき大型木造建築がありますが、門から玄関までかなりの距離があります。ただ、最近建てられたものらしく、あまり品の良いものではありません。



木造のオフィスコンプレックス（おそらく築100年以上）
建物の中には、広い地下室がある。



グローブランドのコンビニエンスストア

グローブランドのようなちいさな街にもキリスト教会はあります。カトリックとプロテスタントを合わせて、3、4件あるようですが、いずれも木造で、築100年以上の古いものです。



聖パトリック教会



2020年は新型コロナウイルス感染を避けるために、ほとんど外にでかけることがありませんでした。おかげで、我が家の庭の紅葉をじっくりと堪能することが

できました。最後に添付した写真は、五分ぐらいの紅葉で、このあと2週間ぐらいがピークになります。